



# 那須烏山市の近代化遺産



旧烏山学館(県立烏山中学校時代)  
(「御大典記念事業完成記念(昭和5年)」より)



現在の烏山学館(川俣記念館)



建物内部の写真

## 旧烏山学館 (現烏山高等学校川俣記念館)

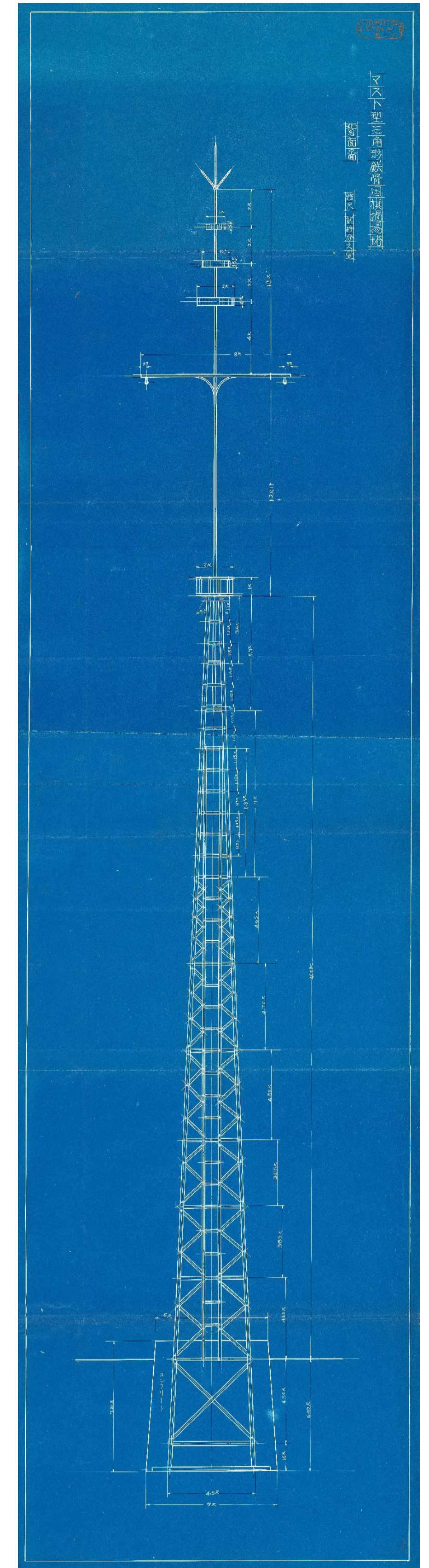
・旧烏山学館は、地域における教育の重要性を唱えた川俣英夫が、私財を投じて明治40(1907)年に設立された学校建築物である。本館の竣工は明治42(1909)年に行なわれた。

・建築当時の建物の構造は木造平屋建てで、玄関ポーチを中央に置いた左右対称の建築物だった。外壁は下見板張り、内部構造は、窓から下は板張りの縦羽目で、上は白色の漆喰になっている。

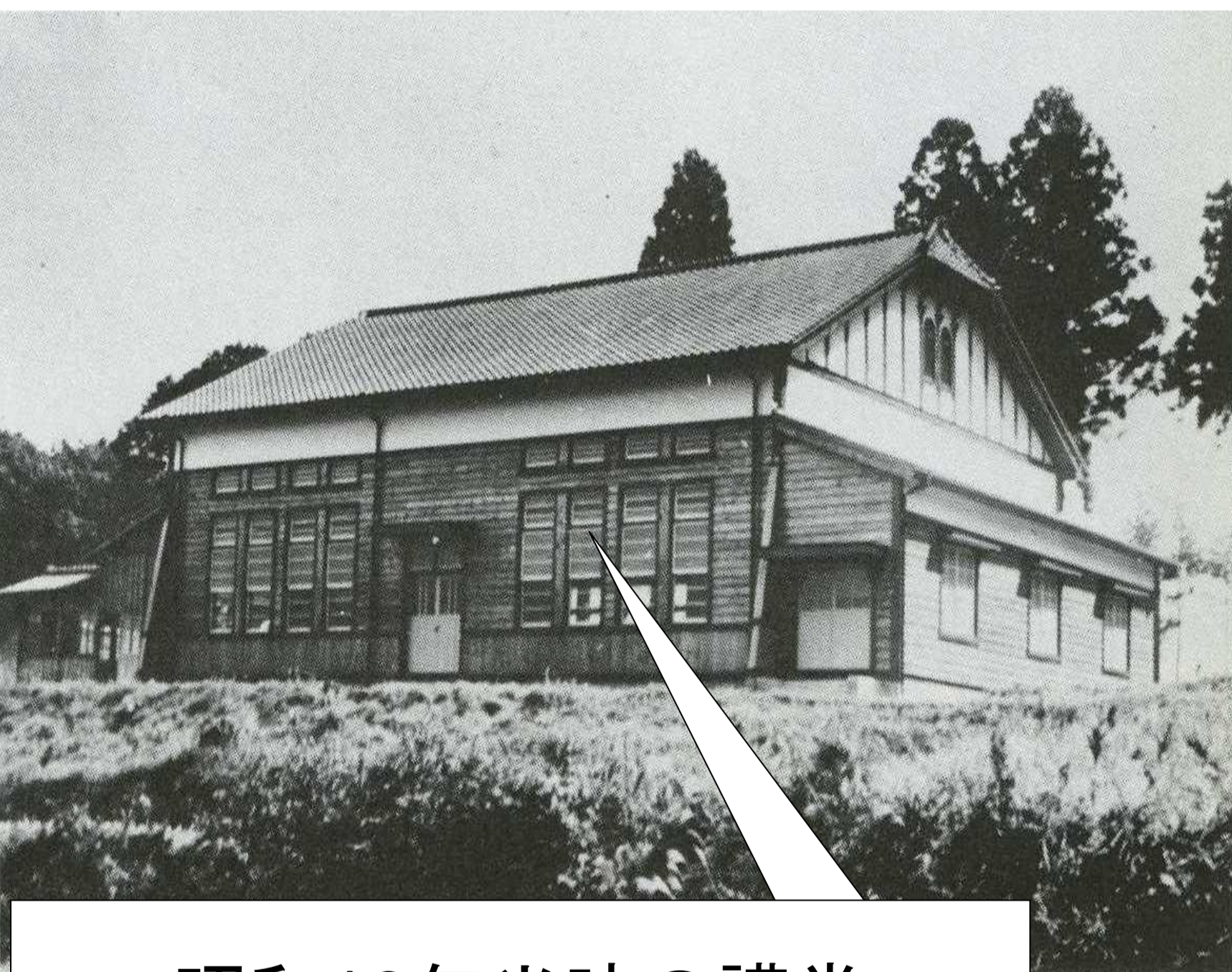
・本館脇には戦前まで『マスト型三角形鉄骨国旗掲揚塔』が立っていたが、戦時中に供出され撤去された。また、この塔の部材構成は4面とも異なっており、貴重な資料である。

・本館は、昭和42(1967)年に新館竣工に伴い川俣記念館として保存された。同45(1970)年、新体育館建設に伴い現在の場所に移築され、旧校長室と事務室は原型に近い形で残っている。

・旧烏山学館は、古色を基調とした近代の風情漂う荘重剛健な建築物である。



マスト型三角形鉄骨国旗掲揚塔(背面図)

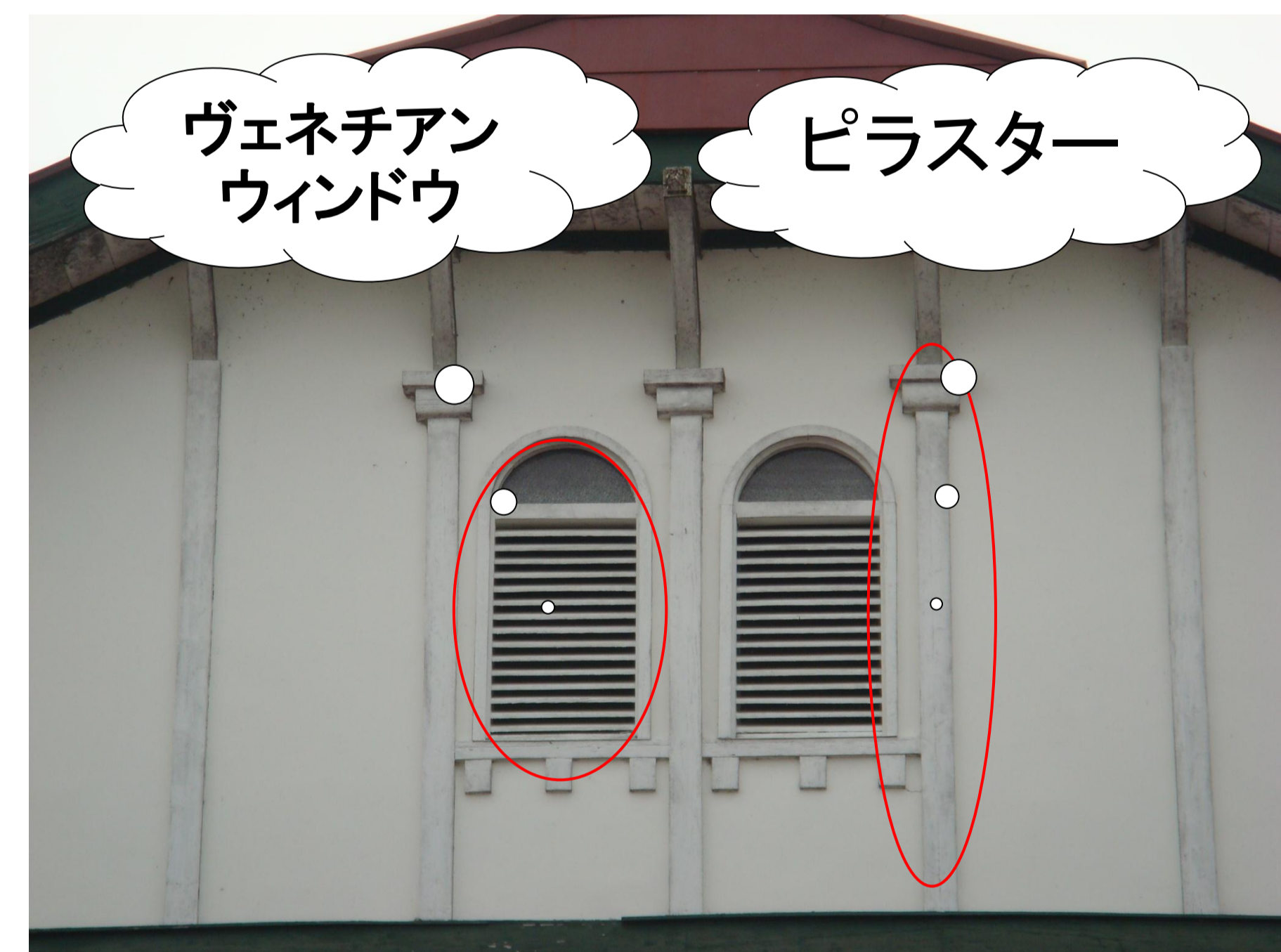


昭和19年当時の講堂

## 旧烏山実践女学校講堂 (現烏山女子高等学校講堂)

・烏山町立実践女学校は、大正10(1921)年に烏山尋常高等小学校に併設され開校した。

・この講堂は、昭和13(1938)年に、当時の町長であった新井萬吉からの講堂新築の寄贈を受け、地元の吉田友吉(吉田組)によって築造された。



ヴェネチアン  
ウィンドウ

ピラスター



アメリカ下見  
板張り



上げ下げ窓

・庇の上にヴェネチアンウィンドウが設けられていて、特徴的である。

・ヴェネチアンウィンドウと組み合わせた3本のピラスターの飾り柱が、優美な雰囲気醸し出している。

・壁面は洋風建築物の特徴である下見板張りが使われている。

・建造当時は上げ下げ窓が使用されていたが、現在は引き違い窓に代わっている。

・この建物は、吉田組の設計・施工により現存する貴重な建造物である。